



三井金属

2017年9月12日

各 位

「フードセーフティジャパン2017」に出展

食の安全に貢献する近赤外光を用いた異物検知システムを展示

三井金属（代表取締役社長：西田計治）の完全子会社である三井金属計測機工株式会社は、D I C株式会社（社長執行役員：中西義之）とともに共同開発を進めている近赤外線が発光を利用する安全性の高い食品内部の異物検出システムを9月13日（水）～15日（金）に東京ビッグサイト（東ホール）で開催される「フードセーフティジャパン2017」に出展いたします。

「フードセーフティジャパン2017」は、なくならない異物混入、フードディフェンス、食中毒、食品表示への対策・対応など、食の安全・安心を実現するソリューションの専門展示会であり、昨年に続きD I C株式会社と共同で「近赤外光を用いた新しい異物検知方法」をカメラおよびセンサによる検出装置を用いてご紹介いたします。

ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、何とぞご光来賜りたくご案内申し上げます。

【展示会概要】

日時 : 9月13日(水)～9月15日(金) 10:00~17:00

場所 : 東京ビッグサイト

ブース : 東2ホール ブース G-44

公式HP : <http://www.f-sys.info/fsj/>

以 上

【お問い合わせ先】

三井金属 経営企画本部 広報部 TEL 03-5437-8028 FAX 03-5437-8029

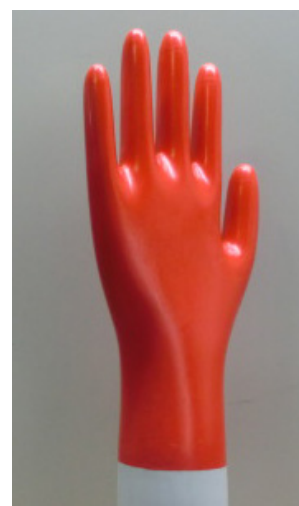
Eメール PR@mitsui-kinzoku.co.jp

(ご参考)

近赤外光を用いた新しい異物検知方法について

人体や食品に対しても影響が少なく安全性が高いとされる近赤外光を利用するシステムです。「近赤外線発光する色素」と「近赤外線発光を検出する装置」とを組み合わせることにより、従来難しいとされてきたプラスチック異物などの検出が可能になると期待されています。

展示会では、色素を練り込んだプラスチック異物の発光を近赤外線モニターで確認するカメラ方式に加え、センサで検出する方式を新たにご紹介します。同方式は、装置が小型であるため既存設備に導入しやすく、かつコスト的にも優れます。また、ブースでは、混入異物となりうる道具や部品として近赤外線発光する色素を練り込んだ作業用手袋やコンベアベルトの試作品を展示します。



赤外線異物検出装置（三井金属計測機工製、左：カメラ方式、右：センサ方式）

DIC社製色素を練り込んだ作業手袋

【三井金属計測機工株式会社の概要】

- | | |
|----------------|------------------------------|
| (1) 本社工場 | : 愛知県小牧市 |
| (2) 設立 | : 1973年12月 |
| (3) 資本金／当社保有比率 | : 400百万円／100% |
| (4) 社長 | : 天野 啓二 |
| (5) 従業員数 | : 80名 |
| (6) 事業内容 | : 計測制御機器および産業用精密機械の開発・設計・組立て |